

モラルサイエンス研究会（令和2年2月5日）発表要旨

民泊の規制から考える創造的破壊と持続可能性

— 博士論文要旨 —

生命環境研究室

研究助手 古川 範和

本稿は、平成29年度から令和元年度の3年間にわたる東京大学大学院新領域創成科学研究科サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム（GPSS-GLI）の博士後期課程において筆者が纏めた博士論文” Toward a Sustainable Ride on the “Perennial Gale of Creative Destruction”: Adaptive Governance of Short-Term Rentals”（邦題「民泊の適応的ガバナンスの研究：『持続可能性』と『創造的破壊』の観点による考察」）の内容を、その構成に従って要約したものである。

本研究は、2008年に創業された米国のAirbnb社が中心となって普及させた民泊が、世界各地の都市で政治的問題を惹起し学界を巻き込んだ論争へと発展していく中で、やがて規制されていくようになった経緯をまず整理し、具体的な規制の内容について詳しく調べた上で、それが民泊のあり方に如何に作用しつつあるかを明らかにしている。従来、関連する諸問題について各論的な報告や考察は提示されてきていたが、本論文はそれらを統一的に扱う枠組みを提供し、マクロ経済的なデータ分析により新たな問題やその解決策を提起しつつ、この分野における今後の研究課題を示している。